



たつべ

# 大阪府内遺跡発掘調査報告

(『発掘された日本列島展 2024』関連講演会)

令和6年11月9日(土)

大阪府立弥生文化博物館

## 立部遺跡・立部古墳群跡

— 在地豪族の墓地と火葬墓 —

松原市教育委員会

文化財課 檜木 規秀

# 1. 立部遺跡・立部古墳群の概要

---

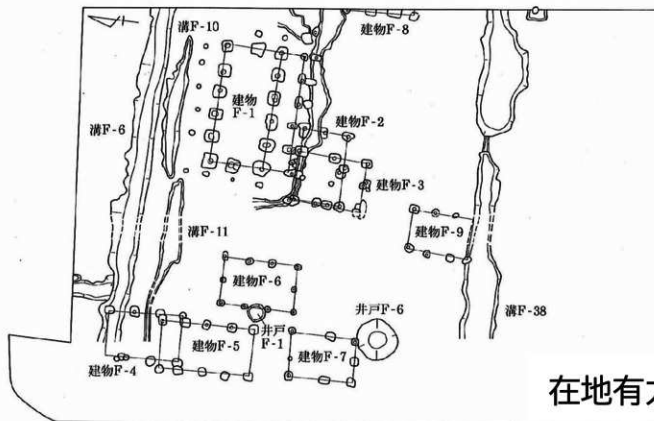
遺跡の種類：古墳・集落・古代墳墓・社寺・  
生産遺跡

遺跡の時代：縄文時代～近世

地理的環境：中位段丘上に所在。中位段丘の  
中には谷地形も存在する。

## (2) 既往の調査

### 現在の(公財)大阪府文化財センターの調査



在地有力者の屋敷（平安時代前期）

## (2) 既往の調査

### 松原市教育委員会の調査

南東から



東から



平安時代末期～鎌倉時代の粘土採掘土坑群



## 2-1. 調査の概要

---

調査場所：松原市立部3丁目

調査時期：平成2年度(1990)

調査面積：1,450m<sup>2</sup>

調査目的：市立運動広場施設整備事業

## 2-2. 主要遺構

---

古墳時代中期～後期：古墳（円墳・方墳）

飛鳥時代：土壙墓

奈良時代：火葬墓

平安時代前期：火葬墓、木棺墓、土壙墓

平安時代末期～鎌倉時代：掘立柱建物、井戸

⇒古墳時代中期～平安時代前期は墓地。

調査地遠景（北西から）



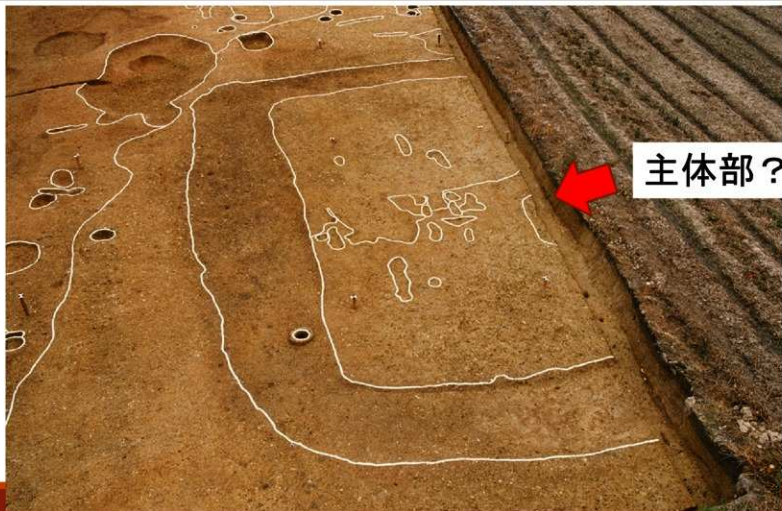
調査区全景（北から）



阪和自動車道



# 古墳時代：方墳SZ2001（北から）



# 方墳SZ2001 埴輪出土狀況

---



# 円墳SZ1001・方墳SZ1002～1006（西から）



### 3. 古墳のまとめ

---

- ・約11～12mの古墳と10m未満の古墳からなる小規模古墳群。
- ・埴輪は比較的規模が大きい方墳SZ2001、円墳SZ1001に配置。  
（両墳は、形象埴輪・円筒埴輪を配置。）
- ・古墳群が所在する丹比地域。  
5世紀中頃～後半に首長層の墳墓をはじめとして、いっせいに小規模古墳が出現。⇒他地域より移入[三宮 2003]。
- ・小規模古墳の被葬者は、首長より独立した葬地を与えられ、在地支配の実務や軍事を担った集団[前掲]。新たな開発を進めたという評価[橋本 2020]もある。

# 飛鳥時代：土壙墓ST1077（西から）

---



# 奈良時代：火葬墓ST1004（北から）

出土状況



土層断面（木炭状況）



# 平安時代前期：土壙墓ST2003（西から）

---



# 平安時代前期：木棺墓ST1088（西から）

---





## 4. 古代墳墓について

### (1) 火葬墓ST2005について

火葬墓ST2005



調査区北部全景（北から）

蔵骨器 掘りはじめ



少し掘り下げた段階



# 蔵骨器壺・埋土（木炭）確認状況



# 出土狀況



蓋を外した状況



蔵骨器 取り上げ後



## 4. 古代墳墓について

### (1) 火葬墓ST2005のまとめ

---

発掘調査からは、下記の点がわかった。

- ・ ①須恵器製の蔵骨器（専用容器に準じる容器）を使用
  - ・ ②木炭槨に近い構造
  - ・ ③9世紀前半である
- 上記の蔵骨器や墳墓の構造から、在地氏族層の出身と推定される[小田 2011]。



## 4. (2) 火葬墓ST2005の自然科学分析について

### —火葬墓ST2005の被葬者は？—

---

- ①どの骨の部位が埋納されている？年齢等もわかる？  
⇒火葬骨の人類学的な分析
- ②被葬者の没年は？考古学的な遺構年代との整合性は？  
⇒火葬骨・木炭の放射性炭素年代測定
- ③被葬者は、どのような物を食べていた？栄養度は？  
⇒火葬骨の食性解析(ストロンチウム同位体分析)

## 4. (2) 火葬墓ST2005の自然科学分析について

### —火葬墓ST2005の被葬者は？—

---

- ・ ④火葬地は？帰葬の問題（蔵骨器は近隣の製品ではない）

⇒蔵骨器内焼土と遺跡土壌試料のストロンチウム同位体分析

⇒考古学だけでは明らかにできないことを自然科学分野と協業。

※各分析成果は、松原市教育委員会 2021『立部遺跡・立部古墳群跡』所収の下記報告に基づく。

①松下真実・松下孝幸 2021 「人骨の人類学的分析」

②南雅代 2021 「火葬骨・木炭の放射性炭素年代測定」

③若木重行・南雅代 2021 「人骨のストロンチウム同位体分析」

④若木重行・南雅代 2021 「土壌試料のストロンチウム同位体分析」

# ①火葬骨の人類学的分析

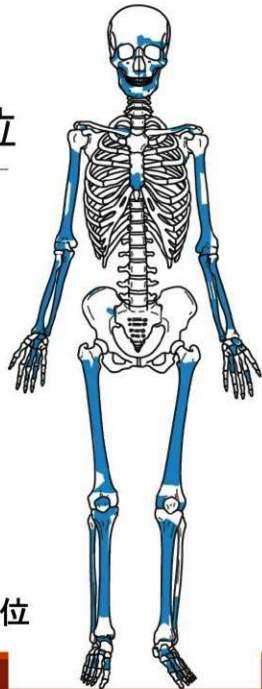
蔵骨器X線CT画像



埋納された火葬骨の部位

- ・筋肉や腱がついた状態で火葬。
- ・頭蓋骨・手足の骨が多い。分骨された？
- ・被葬者  
熟年男性(40～59歳)、  
身長158～160cm。  
上半身をよく使う生活  
様式。

■ 埋納部位



[右図は、松下真実・松下孝幸 2021より引用]

## ②・③火葬骨の成分・木炭の分析結果

### —被葬者の没年・栄養度—

---

- ・②火葬骨・木炭（蔵骨器内）の放射性炭素年代測定  
⇒被葬者は西暦800年頃に死亡したと推定。

木炭はやや古い年代。（遺体火葬時に古木を使用？）  
考古学的な年代（9世紀前半）とは矛盾しない。

- ・③火葬骨の食性解析（ストロンチウム同位体分析）  
⇒比較的栄養度の高い食事を摂取していたと推定される。

## ④遺跡土壌試料の分析結果

### —火葬地の推定—

---

- ・ ④遺跡土壌資料のストロンチウム同位体  
⇒ 蔵骨器内部の焼土と遺跡の土壌資料は地質的に類似。  
調査地周辺で火葬されたと推定される。  
(帰葬の可能性は低くなった)  
ただし、地理的な同一性を示すものではない。  
今後、立部遺跡の土壌試料を追加分析することでさらに  
確度をあげることが可能。

## 5. 古代墳墓と氏族墓地について①

---

- ・時代：飛鳥時代～平安時代前期  
（7世紀前半～9世紀後半）
- ・葬法：土葬（7世紀）→火葬（8～9世紀前半）  
→土葬（9世紀前半以降）
- ・配置：南北に主軸がある点は共通。  
規則性や葬法との関係は認められない。  
墳墓同士の重複はない。小規模な封土は存在？

## 5. 古代墳墓と氏族墓地について②

---

古墳との関係：

- ・ 古代墳墓と古墳は、墓域は共有するが、原則重複しない。
- ・ 方墳SZ2001から奈良時代の須恵器杯出土。  
周溝が埋没せず、管理されていた。  
⇒先祖を意識し、墓域を維持していたことがうかがえる。

## 5. 古代墳墓と氏族墓地について③

---

出土遺物：

- ・ 一般的な土師器・須恵器。特に、高級品は認められない。
- ・ 土葬墓が火葬墓より種類・量が豊富。
- ・ 出土遺物がない墳墓もあり、若干の階層差は存在するか。
- ・ 官人が着装した帯金具等社会的な立場を示す遺物は出土していない。
- ・ 9世紀代の土葬墓2基から出土した土師器の中には、底部を穿孔するものが1点ずつある。⇒共通の規範に基づく、葬送儀礼が存在？



## 5. 古代墳墓と氏族墓地について④

---

氏族墓地としての評価：

- ・ 墳墓の配置・構造と出土遺物から、突出した階層差はなく、比較的均質な階層の個人墓群。
  - ・ 造墓期間に比べて墓数が少なく、氏族の長を中心に、長に近い立場の構成員も埋葬されたと考えられる。
  - ・ 先祖との系譜関係を重視している点が読み取れる。
- ⇒ 古墳時代中期以来、立部を本拠地とした在地豪族層。

# 墓地を営んだ候補となる氏族 一覽

氏族名	本貫地	主要資料
布忍首	丹比郡田邑郷（松原市布忍付近）	『姓氏録』
依網阿比古	丹比郡依網郷（松原市天美西付近）	『古事記』
依網造・連	住吉郡大羅郷（大阪市住吉区付近）	『続日本紀』
中臣酒屋連	丹比郡三宅郷（松原市三宅付近）	『姓氏録』
上道	丹比郡三宅郷（松原市三宅付近）	『正倉院文書』
河内画師	丹比郡土師郷	『正倉院文書』
土師	丹比郡	『日本三大実録』

## 墓地を営んだ候補となる氏族

---

- ・河内画師（かわちのえし）の本貫地は、丹比郡土師郷（たじひぐんはにしごう）。土師郷は、堺市北区金岡と松原市立部付近に比定する説があり、後者の場合、最も可能性が高い候補。
- ・丹比郡を本貫地とした土師氏については、古墳と土師氏の分布が重なることから、河内大塚山古墳近くに居住した可能性も指摘されており、立部がその候補地としてあげられている[塚口 1998]ため、土師氏も候補となる。

# おわりに

## —立部遺跡・立部古墳群跡の位置づけ—

---

- ・ 氏族墓地の様相がわかる良好な事例。  
松原市周辺だけではなく、全国的にも基準となる資料。
- ・ 火葬墓ST2005出土蔵骨器からは、異例の量の火葬墓が良好な状態で出土。自然科学分析により、被葬者や火葬地について多角的な視点で知見が得られた。

⇒ 在地豪族の埋葬方法、墓制を考える上で重要な資料。

# 引用・参考文献

---

(財)大阪府文化財調査研究センター 1998 『観音寺遺跡』

小田裕樹 2008 「奈良県葛城市三ツ塚古墳群・古墓群の形成過程—古代氏族墓地の基礎的研究—」  
『九州と東アジアの考古学—九州大学考古学研究室50周年記念論文集—上巻』九州大学考古学研究室  
50周年記念論文集刊行会

小田裕樹 2011 「墓構造の比較からみた古代火葬墓の造営背景」『日本考古学』32 日本考古学会

小林義孝 1999a 「古代の個人墓と集団墓」『瓦衣千年』森郁夫先生還暦記念論文集刊行会

小林義孝 1999b 「古代墳墓研究の分析視角」『古代文化』第51巻12号 古代学協会

三宮昌弘 2003 「古墳時代地域社会支配構造の一例—南河内丹比地域の様相から—」  
『考古学に学ぶ(Ⅱ)』同志社大学考古学シリーズ刊行会

塚口義信 1998 「天皇陵の伝承と大王墓と土師氏」『網干善教先生古稀記念考古学論集 下巻』  
網干善教先生古稀記念論文集刊行会

橋本達也 2020 『巨大古墳の時代を解く鍵 黒姫山古墳』新泉社